

「相手（採点官）に伝わる答案」へ向けて気をつける観点

観点	判断
1. 和訳（日本語）も英訳（英語）も、主部・述部のつながりがとおり、意味が伝わる文を書けていること	OK
2. 和訳（日本語）であれ英訳（英語）であれ、単語の第一義にとらわれず、文脈や問題文に合った訳語を書けていること	NG
3. 和訳で、英文の構造を理解していることが伝わるように訳せていること	NG
4. 英作文の文章全体を通して、文と文のつながりや主語の一貫性、時制などの配慮ができてきていること	NG
5. 訳出すべき語句の抜け漏れ、英作文のスペルミスや句読点の抜け漏れ、日本語の誤字がないこと	OK

※上記は提出していただいたあなたの答案から判断しています

第1問、(3)で “It is not until...that~” の部分を “~するのはまだ...になっていない” とやくされていますが、この構文は “~するのは...になってようやくのことだ” というように訳すべきものです。構文をしっかりと読み解いた上で適切に訳するよう心がけましょう。

和訳は、暗記している英単語の訳を並べて文にするのではなく、下線部の前後もざっと訳して、そこと自然につながる日本語を考えてください。英訳も、日本語の直訳を逐語訳的につなぐのではなく、問題文の文意を表現し直すつもりで最適な単語を吟味して選ぶようにしましょう。

センター試験も終わり、他教科の2次試験準備も忙しいと思いますが、英文を読むスピードを落とさないように、今までに読んだ京大過去問レベルの英文を1日5題は復習として読むようにしてください。また、単語集などは、移動中の細切れの時間などをうまく使って、全体を総復習し、合格まで油断せずに突き進みましょう。